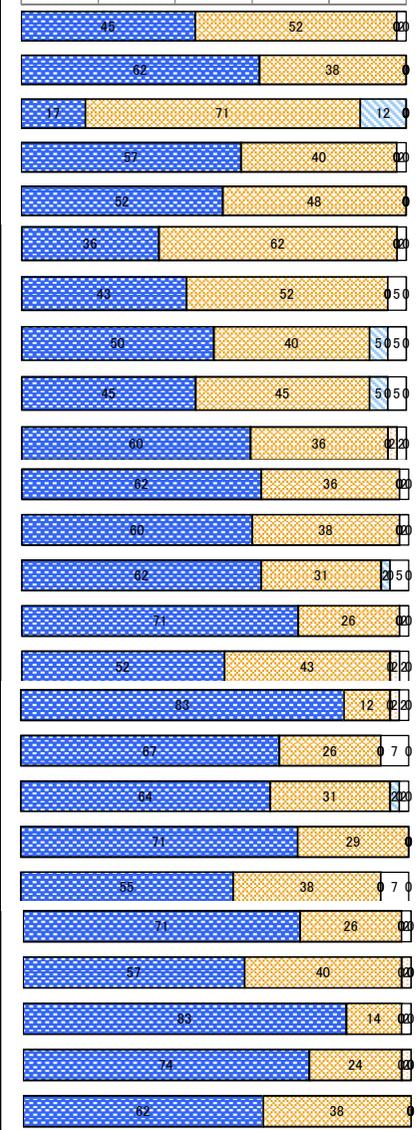
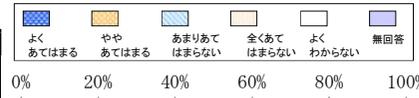


令和6年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分らない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	61	29	4	3	3	0
	2	児童・生徒の様子	40	58	1	0	1	0
	3	基本的な生活習慣	75	20	3	0	2	0
	4	児童・生徒理解	44	49	4	0	3	0
	5	健康・安全・安心	65	30	4	1	1	0
学力向上の取組	6	分かる授業	29	62	5	0	3	0
	7	個に応じた指導	53	37	8	0	2	0
	8	学習習慣	43	48	5	0	3	0
	9	情報教育	68	23	6	1	2	0
	10	学校図書館の活用	42	52	4	1	1	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	67	28	3	1	1	0
	12	道徳教育	38	50	3	0	9	0
	13	教育相談	66	28	4	1	2	0
	14	人間関係づくり	28	45	12	2	13	0
	15	自治的な活動	63	27	7	3	1	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	33	51	8	0	8	0
	17	相談への対応	69	28	2	0	1	0
	18	学校への参加	45	48	3	0	5	0
	19	地域との連携	61	31	7	1	0	0
	20	意見の反映	39	45	11	1	4	0
各学校の特色ある教育	21	地域学習	73	22	3	1	1	0
	22	交流活動	32	52	3	1	13	0
	23	金管バンド	65	28	4	2	2	0
	24	読書活動	36	50	5	0	9	0
	25	防災教育	62	25	8	1	3	0



無効票を除く(%)

無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

1～5の質問項目について、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答は、児童・保護者・教職員の全てにおいて85%を超えている。前年度との比較において最も向上したのは3「服装や通学態度、挨拶などの基本的な生活習慣」である。教職員では、肯定的な回答が14.3ポイント向上した。昨年度の反省を受け、多様性等に配慮しながら学校として統一した見解のもと指導するという手だてを講じたことが結果となってあらわれた。

1「教育目標・方針」について、保護者の肯定的な回答が前年度と比べ5.2ポイント向上した。学校だよりやホームページなどで、教育活動を広く発信した成果だと考えられる。

6「楽しく分かりやすい授業」は、児童、教職員共に前年度から向上したが、保護者に変化は見られなかった。学校公開等を活用して、教育活動を可視化する努力が必要である。

9「情報教育」については、三者において90%を上回る結果となった。保護者の結果が前年度より9.3ポイント向上した背景には、タブレットPC等を活用した宿題など、保護者にも伝わる取組が充実していたことがあげられる。

8「学習習慣の定着」については、児童は前年度より向上したものの、保護者は前年度を下回る結果となった。家庭学習は課しているが、習慣化については課題が残る。7「個に応じた指導」と関連させながら、一人一人の児童に適した課題を提示していく。

前年度の課題であった、11「豊かな人権感覚を育てる教育」、12「道徳性をほぐくむ教育」における、保護者の「よくわからない」が、どちらも5ポイント程度減少した。道徳授業地区公開講座等の取組の充実とともに、学校だよりやホームページでの広報活動が実を結んだと考えられる。また、13「教育相談の充実」において、児童の肯定的な回答が8.8ポイント向上した。ふれあいアンケート等を活用し、一人一人の児童への聞き取りを細やかにしたことにより、いじめの早期発見・解決や、不登校の防止につながった。ただ、児童も保護者も、肯定的な回答群が9割に届いていないので、社会性・人間性の育成のためにも、取組を充実させていく。

前年度と比較して、17「相談への対応」の児童が5.2ポイント、20「意見の反映」の保護者が7.3ポイント向上した。児童の全ての質問項目について相関関係を求めたところ、17「相談への対応」が最も他の項目との関係性が多かった。特に5「健康・安全・安心」や6「分かる授業」との相関係数が高かった。児童にとって、連絡や相談を受け止め、丁寧な対応をする教師の存在が、安心感を生み出し、学習への意欲を高めることにつながる事が明確となった。今の姿勢を継続していく。一方で、20「意見の反映」の保護者の肯定的な回答群が、前年度より向上したものの、8割に届かなかった。意見や要望を受け止め、改善策の提示を可視化していく。

令和5年度・6年度と継続して全ての項目が前年度の数値を上回った。特に、23「金管バンド」についての保護者からの肯定的な回答が4.8ポイント向上した。92名と加入者が増えたこと、金管バンドの発表の機会を増やしたことで、保護者が認知する機会が増えた。

22「交流活動」では、児童・教職員の肯定的な回答が90%を超えた。異学年交流や、特別支援学級との交流など、取組を充実させたことが結果となってあらわれた。5つの項目において、教職員の肯定的な回答が9割を超え、働き方改革を推進しながらも、特色ある教育活動において手ごたえを感じていることが、全体的な高評価につながった。